

☆大学入学共通テスト(1/16・17)まで170日

君の努力で未来が変わる

— 3年夏休みは受験勉強の最重要ポイント —

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、大学入試の日程と方法の見直しが行われています。今年度から導入される「大学入学共通テスト」に関しても、6月末にようやく実施要項が発表されました。それによると、新型コロナウイルスの影響に配慮するものの、通常日程である第1日程については、当初の予定通りの1/16(土)・17(日)とすることに決定しました。すでに3年生全員に説明しましたが、本校でも受験日を原則的に第1日程とします。(詳しくは裏面左ページ参照)

いよいよ、3年生にとって極めて大事な夏休みが始まりますが、この時期は、じっくり時間をかけて実力を伸ばすことのできる最大のチャンスです。この夏の成果が、秋以降の成績の伸びを決めると言っても過言ではありません。

今年は新型コロナウイルスの影響もあって、例年以上に、不安を感じている人が増えてきているかもしれません。まずは、現在の成績や学習状況等を分析して、自分の課題を明確にしてみることから始めましょう。まだまだ、時間はたくさん残されていますから、毎日を大切に努力していけば、未来を良い方向に変えることが可能です。

高校3年の夏は一生に一度。ぜひ、この特別な夏を悔いのないものにしてください。郡山東高校の全教員が3年生の挑戦をしっかりサポートしていきます。一緒にこの夏を乗り切りましょう。

特集1 1,2年生も将来に向けて知っておきたい

3年夏休みは何をすべきか 

1 自己管理をしっかり 「勉強最優先」が鉄則

7月末現在では、家庭学習時間もかなり改善されているとは思いますが、今のままでの勉強量では、志望校合格に必要な学力を身につけるのは難しいと思われます。夏休みは、何よりも勉強を優先し、1時間でも多くの勉強時間を確保するのが受験の鉄則です。受験生として何をすべきかを考え、限られた時間を大切に使いましょう。最終的に成功していく人の共通点は、自己管理がしっかりできることです。

2 基礎基本を定着させる

9月からは、各種の模試を受験して志望校の合否判定を確認したり、より実践的な問題演習を行った

りしていくこととなります。しかし、その効果を上げるためには、8月末までに、これまでの学習内容の「基礎・基本」をしっかり定着させておくことが必要です。

① 模試・考査の復習 過去の試験問題は最高の教材

過去の模試と考査の復習は最も効果的な学習法の1つです。それらの問題を、時間をかけじっくり解き直していただくことです。模試は、幅広い範囲から出題され、各単元での重要な部分が厳選されています。また、同じ業者の模試では、同じ内容の問題は繰り返されないよう出題されています。それゆえ、模試の復習は、全科目の単元ごとの重要事項を、短時間に効率よく復習するには最適な方法なのです。

② バランス重視 英数国+理社の追い込み開始

最終的な合否結果は、全科目の合計点で決まるため、「総合力」の強化が重要です。特定の教科・科目や分野に偏ることなく、「教科(科目)間」と「科目内の分野間」のバランスを考えた幅広い勉強が必要です。また、英数国に加え、「理社」の追い込みを開始する時期になりました。特に、理系の理科と文系の地歴公民については、共通テストだけでなく国公立二次試験や私大入試でも重要な「勝負科目」になってきますから、力を入れる必要があります。

3 志望校選びを本格的に始める

① 第1志望への思いは大切に

現段階で、第1志望の大学を変更する必要はありません。確かに、自分の実力を自覚することは大変重要です。しかし、現段階で、安易に妥協することは、かえって、今後の勉強のモチベーションを下げてしまうことにもつながりかねません。以下に述べるように、第2志望以下の大学を設定しておくことは、受験生として常識的なことですが、むしろ、今の段階では、「第1志望」を大事にし、その思いをエネルギーに変えて勉強する方が、断然、効果的です。

② 『出願パターン』3通り以上を設定

例年、本校では、12月の三者面談までには、国公立大志望者に対し、共通テストの得点に応じた出願先の組合せのパターン(「前期日程」+「後期・中期日程」)を3つ以上設定しておくよう指導しています。そのためには、あらかじめ、第1志望以外にも、複数の大学(国公立大+私立大)の学習内容や入試方法を確認し、出願先の候補をリストアップしておく必要があります。そして、9月以降の模試では、それらの大学についての合格判定を確認し、最終的な出願校の絞り込みをしていくこととなります。

私立大志望者についても同様で、同じ大学の学部・学科でも、多様な入試方式・日程が組まれていて、大学間の違いも大きくなっています。各大学の募集要項でしっかり確認しておきましょう。

③ 最新の募集要項で情報入手

3年生が受験するのは、「令和3年度(2021年度)入試」です。今年は特に、コロナウイルスの影響に伴い、新たに入試内容や出願期間等の変更が追加された大学があります。各自、志望する大学の最新情報を入手しておきましょう。

④ 『赤本』で到達目標を確認

志望校の赤本を見て、過去の出題内容を確認しましょう。具体的な出題形式、難易度、分量を確認するとともに、将来的に自分の到達すべき学力レベルと現在の実力との「差」を正しく認識しておくが目的です。その「差」を埋めることを目指して勉強をしていくのです。また、入試問題は大学からのメッセージです。大学からどんな学力が求められているのかが分かれば、自分の勉強の具体的な目標が明確になるはずで、気軽に進路室に来て、実際に志望校の赤本を手にとってみましょう。



特集2 大学入学共通テストの日程決まる

新型コロナウイルス感染拡大の影響でだいぶ遅くなりましたが、6月末に、今年度から導入される「大学入学共通テスト（以下「共通テスト」）の実施要項が発表されました。概要は以下の通りです。

1 受験日程

- 第1日程 1月16日(土)・17日(日)
- 第2日程 1月30日(土)・31日(日) (第1日程の追試日程も兼ねる)

1日目 地歴公民、国語、英語（リーディング、リスニング）
2日目 理科①（「基礎」あり）、数学①（ⅠA）、数学②（ⅡB）、理科②（「基礎」なし）

第1、第2のどちらの受験日にするかは、9月末からの出願の際に受験者が選択することになります。ただし、第2日程は新型コロナウイルス感染症の影響に伴う学業の遅れに対応するためのもので、学業の遅れのため当該日程で受験することが適当であると学校長が認めた者のみが受験可能です。

さまざまな角度から検討した結果、本校の基本方針としては、第1日程を受験日として出願することになります。これらについては、すでに、6月19日（金）に説明会を開き、進路指導部より3学年の全員に対して説明をしています。もし、第2日程を希望する人がいる場合は、担任を通じて相談してください。個別に対応し、最終的には学校長が判断します。

2 大学入試センター試験からの主な変更点

「共通テスト」では、これまでのセンター試験以上に、知識の理解の質を問う問題や、「思考力」、「判断力」、「表現力」を発揮して解くことが求められる問題が重視されます。

また、授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等を基に考察する場面など、学習の過程を意識した問題の場面設定が重視されます。

【科目ごとの変更点】

- 数学① 試験時間が60分から70分へ10分延長される。
- 理科② これまでの選択問題が設定されなくなる。
- 英語
 - ・英語（筆記）の名称が英語（リーディング）に変更され、「発音、アクセント、語句整序など」を単独で扱う問題は出題しない。
 - ・リーディングの配点が200点から100点へ、リスニングの配点が50点から100点に変更になる。なお、各大学のリーディングとリスニングの配点比などの成績利用の方法に関しては、大学によって異なるため、各大学の募集要項を確認すること。
 - ・リスニングでは、これまでではすべて2回読みだったが、共通テストでは、2回読みと1回読みの両方の問題がある。



特集3 2020年度大学入試の分析結果報告

新入試を控え全国的に“安全志向”が強まる

全国の高校の実際の入試結果を基に各大手予備校や受験機関が調査した2020年度入試の分析結果が発表されました。これによると、2021年度入試には大学入学共通テストの導入をはじめとした入試改革が控えていることを受けて、2020年度入試では、国公立大、私立大を問わず、「安全志向」がこれまで以上に強まったということがわかります。以下は、ベネッセによる「2020年度入試結果調査」による分析結果の報告資料を要約したものです。

① 国公立大は文・理系ともに志願者減 私立大は「理高文低」

国公立大では、新入試を控えた安全志向の影響に加え、センター試験の平均点の低下と18歳人口の減少により、文系・理系ともに志願者数が減少しました。特に、難関大（東大、東北大などの10大学）とブロック大（筑波大、千葉大、新潟大など）を除く中堅の国公立大での減少が顕著でした。これは、センター試験の平均点の低下の影響で、本来は国公立大を志望していたものの、私立大へ切り替えたという人が多かったためと考えられます。

私立大でも、2020年度入試では志願者が減少しましたが、いわゆる「理高文低」の傾向が見られ、文系では、法学系統、社会学系統、国際関係系統で特に志願者の減少が目立ち、理系では、医学・薬学系統等の減少傾向が継続する一方で、工学系統、農水産学系統の志願者数がやや増加しました。また、首都圏など都市部にある大規模大の志願者数が減少する一方で、地方では、志願者数が増加している私立大も目立ち、安全志向から都市部の大規模大への出願を避け、地方の私立大へ出願する受験生が多かったと考えられます。例えば、仙台市にある東北学院大などでは、近年、難易度が上昇し、以前よりも明らかに合格しにくくなってきています。

② 国公立大『慎重な出願』と『後期日程の欠席率』の上昇 61.3%

2020年の国公立大の入試では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、後期日程を中止した大学もあったため単純な比較はできませんが、「後期日程の欠席率」は61.3%となり、8年連続で前年を上回っています。これは、次年度に新入試の導入を控え、前期日程で合格を決めたいという「安全志向」による慎重な出願傾向や、3月の後期日程を受験せず、私立大の合格が決まった時点で「進学先」を決定してしまう動きの強まり等が要因と考えられます。

ゆえに、国公立大志望者は、前期日程で不合格となってもあきらめず、後期日程まで受験を続けられ、合格のチャンスが増えると言えます。本校では、3/1の卒業式の後も個別指導を継続していきます。

③ 私立大『入学定員の厳格化』の影響が続く 志願者数は減少へ

2016年度から、私立大では、以前に比べ、都市部の中・大規模大で合格者数を絞り込む動きが続いています。これを受け、昨年度までは、併願校を増やす受験生の動きと、WEB出願や受験料割引制度の導入など併願を行いやすくする大学の取り組みが重なったことや、安全志向により国公立大を避ける受験生の増加により、私立大の一般入試の志願者数は増加傾向にありました。しかし、2020年度入試では、私立大の志願者数は減少に転じました。18歳人口の減少による現役生の減少と、難関私立大の合格者数の下げ止まりによる既卒生の減少、推薦・AO入試による合格者の増加やセンター試験の難化によるセンター利用方式に出願する受験生の減少など、複数の要因が考えられます。

④ 国公立・私立ともに『推薦・AO入試』の拡大が続く

国公立大では、募集人員の増加傾向が続き、志願者数、合格者数ともに緩やかに増加しました。また、近年、国公立大の推薦・AO入試では、センター試験を課すなど受験生の学力を測る選抜方法を実施する傾向が強まっています。面接試験や評定平均や特別活動の実績だけでなく、「基礎学力」が重視されるようになってきたことで、以前よりも難易度が上がっています。

私立大では、募集人員の増加はないものの、志願者数と合格者数が増加しています。これは、近年の「入学定員の厳格化」の影響と新入試への不安による安全志向の強まりによって、推薦・AO入試を利用して、早めに合格を手にしたいという受験生の気持ちの表れと考えられます。

本校にとっても、「推薦・AO入試」は戦略的に大事な入試方法の1つです。しかし、「早く合格して楽になりたい」という安易な考えで進路選択をすることのないよう指導していきます。